

## SY3-4

## 楽しくなる学校歯科保健～これからの学校歯科医～

丸山 進一郎

医療法人アリスバンビーニ小児歯科

平成28年度の文部科学省の学校保健統計によれば12歳児(中学1年生)の一人平均むし歯本数は0.84本(男女平均)になりました。昭和50年代は4本以上であったことを考えると、学校歯科保健と小児歯科に関わってきた人間には感慨もひとしおです。一方、歯肉炎を持つ子どもたちの割合は小学校2年生あたりから徐々に増え始め、中学生になると50%以上の子どもたちが大なり小なり歯肉に炎症を持ち始めます。その背景には、子どもたちの生活時間が大人化し、深夜化しています。また、種々の環境から受けるストレスも大人並みになっているのでしょうか。思春期の難しさもありますが、メンタル面への配慮も必要なのでしょう。また、生活習慣の変化や育児環境の変化からと思われませんが、口腔機能の健全な発達が危ぶまれています。今回は、そのような園・学校歯科保健の課題について触れ、これからの園嘱託歯科医、学校歯科医が求められていることについてお話ししたいと考えています。そして、園・学校歯科保健を通じて子どもたちに何ができるか、自分の経験をお話しし、園・学校へ行って子どもたちと触れることが楽しくなるような講演にしたいと考えています。